

授業科目	* 小児看護学実習				単位	2		
履修	必修	関連資格	高一種免(看護) 養教一種免		ナンバリング	NU31304J		
開講年次	3~4年	開講時期	後期・前期	該当DP	DP2-1 DP3-1 DP4-1 DP4-2 DP5-1 DP5-2			
担当教員	小野 正子、原山 裕子、樋口 由貴子							
授業概要	<p>【実務家教員担当科目】</p> <p>既習の知識・技術・態度をもとに、実践を通して、健康障害をもった子どもと家族の看護に必要な基礎的な実践能力を習得する。実務家教員としては、臨床現場での経験を生かし、具体的な例や臨床でのモデルとなり学生の学びを支援する。</p>							
学生が達成すべき行動目標	1. 健康障害をもった子どもと家族に対して、事例を受け持ちながら看護過程を展開できる。 詳細は、実習要項参照							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	10	10	32	48	100	
知識・理解 (DP1-1)								
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			4	2	30	10	46	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)			2	2	2	4	10	
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)			2	4		2	8	
態度 (DP4-2)			2	2		2	6	
態度 (DP4-3)								
技能・表現 (DP5-1)						10	10	
技能・表現 (DP5-2)						20	20	
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								
理想的レベル				標準的なレベル				
健康障害を持つ子どもと家族に対して、事例を受け持ちながら、発達障害段階に適した個別性のある看護を展開できる。				健康障害をもった子どもと家族に対して、事例を受け持ちながら少なくとも1つ以上の看護問題を明確にし、看護計画をたて看護過程を展開できる。				
授業計画								
進行	テーマ・講義内容			授業の運営方法		学習課題(予習・復習)		予習・復習時間(分)
1	2週間の実習期間、原則として患児1名を持ち、受け持ち患児の状態と病棟の状況に即して講義・演習で			学生は教員および実習指導者の指		実習前に事前学習として提示する。		

	学んだ知識や方法を基に実践する。 具体的な方法及び実習内容については、実習要項で説明する。	導・助言を受けながら、主体的に実習に取り組む。		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				

25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	3年前期までの知識・技術、特に小児に関連した科目は、しっかり復習して実習に臨んでください。			
テキスト	なし			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	実習中適宜紹介します			
授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	実習中は自分自身の健康管理に十分留意してください。			
達成度評価に関するコメント	実習前に、看護実習要項を基に説明します。			